

現地座談会

第19回

県畜産共進会を顧みて

出席者

県酪農試験場長	図師 重孝 (乳牛部門審査部長)
県和牛試験場長	林 正夫 (和牛部門審査部長)
県畜産課長補佐	宇野 仁 (豚部門審査部長)
乳牛部門農林大臣賞	上野 清 (邑久郡邑久町)
肉牛部門農林大臣賞	塩見 友一 (都窪郡清音村)
種豚部門農林大臣賞	石原 金吾 (赤磐郡山陽町)

(司会) 本会管理普及課長 千原英之

特に優れてはいないが、レベルは高い

司会 第19回の県共も終り、ご入賞の皆さんおめでとうございました。入賞の喜びのまだ生々しいとき、各部門の審査長のお3人をまじえて、共進会の成果、更にはこれからの畜産の方向等話し合ってみたいと思います。

上野 わしは乳牛を飼い始めて4、5年にしかならず、しかも息子が主にやっており、わしは草苻やえさをやるのを手伝う程度ですが、この共進会に出てみまして、つくづくいいことだと感じましたね。

塩見 僕のほうも親父が主にやっており、私は4、5回共進会に手伝いに来た程度です。

初めのあいだは郡共に出していたんですが、そうになると欲が出て県共に出したいということになり今回で5回目です。昨年は牛が途中で病気になり、今年もそれを気にしていましたがなんの故障もなく、やれやれ思っとるんです。

石原 岡山県の場合ブタの出品は一昨年からは始まり、今年で3回続けて出品しました。昨年も1等2席に入ったのですが出した以上は自分の欲、地区の名誉にかけてもいいところに入りたいですね。

司会 今回の共進会の成果をどうぞらんになりまし

たか。

図師 私には初めての岡山県共進会ですが、共進会を聞きますとその県の畜産の改良速度とか、皆さんの飼育の程度が解りますね。その点非常にいいことだと思います。岡山の牛を初めて見ましたが、牛がよく揃っていますね。特に優れたものは見られなかったですが、レベルは高いですね。

司会 林場長は経験がおありですが。

林 和牛の場合、今年から肉用牛の共進会と名前をはっきり変えました。これは農林省からの要望もあり、審査の方針もそれにのっとりガラッと変えるということで、実は私も審査する側として非常に喜憂したのです。今迄だと1等賞まちがいなしという牛で、案外な成績だった牛がいたと思います。

その点はこの新しい方針、これからの方向を皆さんに理解して頂く為に思い切ってやりました。

司会 宇野さん昨年勝山町で行われた県共進会では地元農林農務課長として大活躍でしたが、今年の県共進会をどうみましたか。

宇野 私は昨年あのようにやり、付属物の有無には問題もありますが、今年は地理的条件か何かちょっと淋しいですね。

ブタをみまして、ブタは進歩しましたが、ただ私が心配することは、多額の金をかけて共進会をやるからには、浮ついた調子にならず、地についた畜産になってほしいということです。今後には問題がありますね。

肥育と繁殖の一緒は難しい—豚

司会 ここ迄来られるのには経営、技術その他に随分御苦労されたと思いますが。

岡山畜産便り 1963.11

石原 私が豚を始めたのが昭和 25 年で、当時は今のような完全飼料もなく、県の指導方面も整っておらず、経験者に聞いたりしてやって来ました。その後県の諸先生方の指導により、繁殖豚の方に特色を生かすべきだということで、私達の地区は繁殖豚が主になりました。種豚は飼養管理が難しく、完全飼料だけではよい種豚は出来上らないですね。

司会 その点養豚も今後難しい問題があるますね。

宇野 そのとおりでして、豚の肥育と繁殖を一緒にしては、技術が混同し易く駄目だと私は申していたのです。産ませて育てて肥育するのは危険率の分散からいいのですが、石原さんのおっしゃる様に難しく、初めての方には無理ですね。

石原 今年から出品が県内産に限定されて、昨年より出品豚の質がおちていると思いました。岡山県は和牛、乳牛に力を入れ、豚はおくれています、関係機関の御努力でここまで来て、私達も出来るだけのことはしてみようと思っています。

司会 ランドレースは初めてですか。

宇野 これは酪農試験場の育成豚で参考出品です。岡山県はヨークシャーでかたまっていない豚では若い県で、今後両者のミックスの仕方が問題ですね。外国の消費生活と違い、ランドレースは加工用にはいいですが、ちょっと日本人の嗜好にあいません。F₁か何かをつくり安定した養豚経営になってもらいたいです。豚は増減が激しく、価格も安定しませんからね。そういう意味で試したに出品したんです。

司会 和牛はいかがですか。

林 塩見さん、お父さんのお手伝いということですが。

塩見 実は今年の 5 月に、農繁期中でも一番忙しい時に、父が胆石で入院し、母も付き添いですと行かれ、そのときは家内と 2 人でどうしようかと思ひましてね。やせさしてはいかん思ひまして、くたびれてもいるし苦心しました。

林 何頭ぐらい飼われているんですか、でそれは使役の為にですか。

塩見 1 頭だけで、使役しません。

林 何か特別な飼い方をされましたか。

塩見 別に変わった飼い方はしませんですなあ。

よい牛で主畜経営を

司会 乳牛のほうはどうですか。

図師 上野さんは成牛 7 頭育成 3 頭飼っておられ、水田 1 町 5 反やっておられて飼料の確保など大変でしょうね。

上野 わしら親子 3 人だけですが、嫁がよう働いてくれるのでよそより手おくれするようなことはありません。牛はわしが好きでして、同じ飼うならいい牛をと思ひまして、大抵



2 等級以上の牛の子を集めました。それに 120 万円程かけましたが案外順調にいき、今年は 150 石より多く出ました。これよりさがることはないと思ひますね。

図師 良い牛を集めることはいいですね。それで繁殖障害は出なかったですか。

上野 それは皆さんが邑久町一じゃという程度でして、それは全然ないんです。去年はメンコを 5 頭も産み、どれも売払うのが惜しいような血統でして、今 3 頭います。

図師 農繁期の労力はどうなんですか。

上野 ええ、田植えは渡しにしていまい、麦も稲の後に直播し、トラクターも使わず出来るだけ手間を省くようにします。

図師 お宅の場合、水田と酪農をやっておられ、乳牛が非常にいいのはやはり酪農を主体にした経営ですね。

上野 まあ、今はそうになりましたね。

まず価格安定、技術向上、計画企業、生産を

司会 これからの畜産を伸ばすにはどうすべきでしょうか。

上野 私は酪農をやりながらも不安を感じとんでして、今後乳牛が増え乳が充分になって乳価が安くなると、経営が成立っていくんだろうかという不安を始終もっています。その点をこの道の明るい人に需給状況にあったように指導してもらわないと一般がこまるようになりやあしないでしょうか。

司会 畜産をやっているものの共通の悩みですね。図師場長いかがですか。

図師 それは私が答えるべきことではないんでしょ

岡山畜産便り 1963.11

うが、実際に消費の動向に応じた生産が必要ですが、需要期と不需要期のアンバランスが出てきて乳価の問題がおこるんですよ。この不均衡を無くすることが必要ですね。これに対処するには生産者としては企業に徹すべきです。上野さんのように酪農主体の経営になれば、その点割り切れるわけです。農繁期の労力による生産の左右がなくなりますからね。技術的にはやはり計画生産が必要です。それに経営自体が安定していない点に問題がありますが、生産者自らが飲むことも食生活健康更に消費の面からも必要です。それにやはり学校給食の生乳化の問題ですね。

これらの問題は生産者、業者、行政が協力し、消費流通の流れを根本的に解決しなければなりません。これから生活水準が揚げば畜産物の絶対量不足は当然ですし、私はやはり食料は自給することが国の政策として必要だと思えますね。

司会 和牛でも同じことが言えますが、塩見さんの経営はどうですか。

塩見 まず価格の安定が必要ですね。昔と違い今は肉牛といって繁殖と肥育ですからね。

林 これは畜産物共通の問題でして、農家の人は消費流通のパイプを行政的に通りをよくしてもらわないと安心して構造改善とともつくめないですね。私等の立場では技術的にはこうなさい、経営ではそうなさいというよりほかに出来ませんからね。

司会 県の指導方針も和牛では壁に当たっているわけですね。何かいい方法はないですかね。

林 特に生産の面ですね。これも山奥のような土地柄を高度利用する為の道具として、真剣に取り組めば和牛生産も充分採算があうと思えます。いい牛を多頭化して、草に寄り所を求めることですね。

司会 ブタは又和牛とも違いますが。

石原 今畜産振興ということですが、難しい問題ですね。かあちゃん農業に変わりつつありますし、価格の激しく変動する難しい百姓より給料取りが楽だという考えになりつつありますからね。

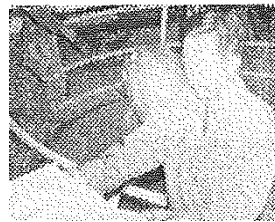
宇野 そうですね。いずれのものにしても競争者があるわけで、他人よりコストを安く生産する技術が必要ですね。今の価格安定法は5、6年の平均から出したもので、生産保償方式じゃないんですからね。

今のまま共進会でよいのか

司会 いろいろお話を伺ったのですが、最後に共進会のあり方について、出品者の方にお尋ねしますが、今の形は経営にあわないというようなことはありませんか。

上野 乳牛の場合未經産は多いが、経産牛は少いんですよ。これは共進会にいい牛を持って来て、条件をよくしようとする為、牛には相当苦痛ですよ。帰ってから影響が出るから皆さんひかえると思います。

図師 そうですね。今のままでは段々に出品数が減りましようね。



石原 豚は岡山県は貧弱でして、共進会というからにはもっと熱を入れ、50頭ぐらいは出品しないと駄目ですね。そ

うするといいいものが出るようになると思います。

塩見 和牛の場合、部門により出場頭数に大きな差があるのに入賞の数が同じというのはちょっと不都合ですね。

司会 ところでこの共進会そのものが儲かる畜産と結びついた、経営も含めたものにならないかと思えますが。



図師 共進会の目的は家畜の改良、あるいは飼養管理の向上ということですね。だけど実際に批判されている問題は、経営にマッチしたものをということです。共進会の入賞牛かならずしも経営なり立たずということになります。しかし産乳産肉能力を併せて調べることは、飼料効率など長期にわたし金もかかりますし、これは問題がありますね。

林 畜産共進会という名目で毎年開かれますが、これは種畜の共進会になっていますね。しかもそれが、血統能力の点もあるが体型資質の現況に限定されていますよね。特に和牛の場合は上位入賞することによる、地区の販路拡張宣伝の場となり目的をされている感じがしますよ。

お祭りが研究の場かもっと徹底を

図師 私はこうも考えているのです。この場を、皆んなが1年間の苦労をともに分けあう場にしてです

岡山畜産便り 1963.11

ね、全ての農産物、農村の色々な娯楽を出して、3日ぐらい家族全員で楽しめる共進会にしてもいいですなあ。

林 私は研究の場としてか、祭典としてか共進会の性格を徹底させる必要があると思いますね。種畜、経営、祭典と重点を決めておいて、参加者も見るとも認識しながら見てゆけばマンネリから抜け出せると思います。

それに褒賞授与式などあまり儀式ばりすぎますね。県共の一番悪い点ですよ。もっと出品者主体に考えるべきだと思いますね。

函師 どうも最後の儀式張ったところに時間をくすぎますね。

司会 さらい年は6県の共進会が岡山県であります、それにはひとつ新しい構想でということを神戸の6県共進会のあとでいわれたのですが、その意味も含めて共進会のあり方をどうお考えでしょうか。宇野課長補佐さん。

宇野 私は6県の共進会もやっており、ほんとに改めたいと思ってるんですが、ただねらいをどこにおくかという問題があります。それにより方法も変えなければなりませんからね。

それから団体や県が共進会を毎年1つの行事としてやらなけりゃならないんだという考えで、参加者にほんとに参考になっていないきらいがありますね。

将来の共進会には草も経営も

司会 さらい年の6県共進会の下準備として、畜産

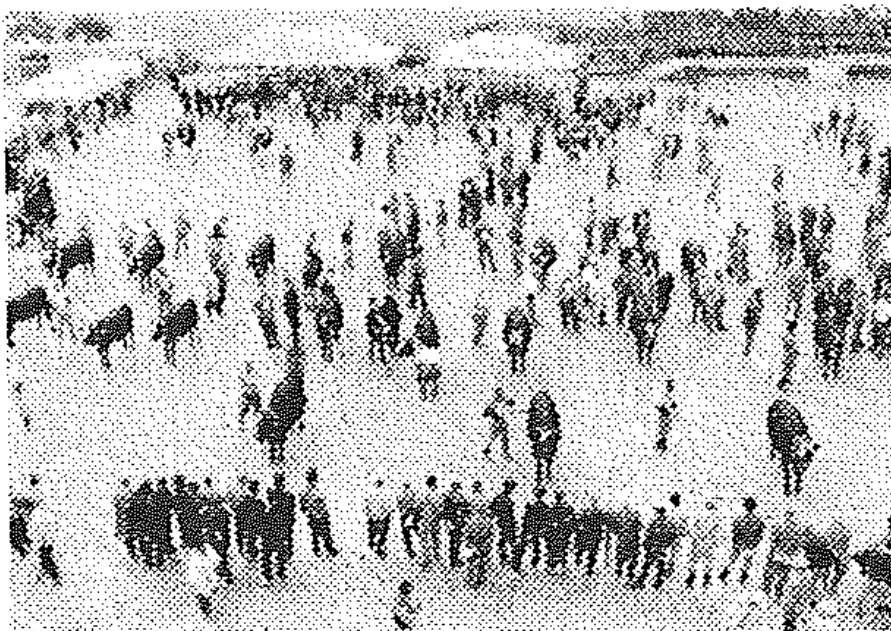
に欠くべからざる草の共進会、更に経営の記帳したものを出品の条件にするようなものはいかがでしょうか。

函師 私の前任地で3年間経営共進会をやったのですが、経営要素を50%みるわけです。出品牛が決るとその牛の能力と経営状況を全部調べ合計100点にするのです。いいことですが全県下行きますと、莫大な費用ですからね。

宇野 面白いでしょうが大変だと思いますね。今の共進会は和牛は商法的で、乳牛豚は種畜を見せる場ですね。だから改良の必用のないものは出品したがりません。改良の手段なら共進会をしなくても効果があればいいわけです。今はこの点がごっちゃになり、畜産として一緒にしなけりゃいかんという観念があるのです。自ずから根本が違うんですよ。だから出品で和牛は殺到するが乳牛や豚はおつきあいで、山羊、綿羊は手当を出しても出ないということになるのです。こういうものを強制的にする必用があるかないか、という問題がありはしないですか。

林 まあその事は全て同じでしょうが、良くてあたりまえで、陰があれば大きく目につくわけです。今共進会の陰を見て話をしているのですが、県あたりにこの現状の改善点を考慮して頂く事をお願いしておきましょう。

司会 そうですね。来年の共進会がより良いものになる事を祈って、この座談会を終わりたいと存じます。有難うございました。



共進会審査全景